

## まえがき

管理栄養士をめざす人達にとって、国家試験の合格は至上命令です。私は仕事柄たくさんのお客様を見てきました。そこでいつも残念に思うのは、勉強への努力量と合格とは必ずしも一致していないことです。遊ぶ時間をけずり受験勉強に多くの時間を費やしているのに、成績が上がらない、模試でいい点がとれない、結局本番の国試でも合格点に達しない…そんな学生をたくさん見てきました。

国家試験問題といっても、その中には単に記憶の有無を問うものから、応用力試験までいろいろな種類があります。その中で学生の皆さんが勉強のやり方に戸惑うのは応用力試験でしょう。応用力試験の鍵を握るのは症例の読み方、すなわちカルテや検査値の見方です。このカルテや検査値の見方がわかるようになると、国家試験問題だけでなく、実際の臨床現場においても正しい解釈、正しい判断が下せるようになります。

実は、国家試験問題の作られ方には「型」が存在します。さらに合格点達成に特化した効率よい勉強法にも「型」が存在します。この「型」を知っていると知らないのでは、勉強の効率も合格率もかなり変わってきます。受験生の皆様には単なる臨床栄養学的知識だけでなく、それらの「型」まで含めて理解して頂きたい、と思い本書を作りました。

というわけで、本書では症例を使ってカルテや検査値の見方に慣れ、管理栄養士としての実力向上をめざしました。症例には過去の管理栄養士国家試験問題だけでなく、看護師の国家試験問題も使用しています。看護師国家試験は歴史が長い分、こなれた問題が多く、さらに臨床的色彩が強いので、練習問題としては最適です。

これらの症例を学ぶことにより、カルテや検査値の見方も理解でき、臨床栄養学のまとめにもなるように組み立ててあります。さらに国家試験の受験生だけでなく、実際の医療現場の管理栄養士の皆様方の実力アップにも貢献できるように工夫したつもりです。本書をうまく利用して、単に国試合格だけでなく、真の実力を付け、現場で活躍できる管理栄養士になって下さい。

2009年2月

田中越郎